



## 平成29年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年10月28日

上場取引所 東

上場会社名 神奈川中央交通株式会社

コード番号 9081 URL <http://www.kanachu.co.jp/>

代表者 (役職名) 取締役社長

(氏名) 堀 康紀

問合せ先責任者 (役職名) 総務部長

(氏名) 平岩 敦

TEL 0463-22-8800

四半期報告書提出予定日 平成28年11月11日

配当支払開始予定日

平成28年11月22日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成29年3月期第2四半期の連結業績(平成28年4月1日～平成28年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第2四半期	57,278	2.3	4,560	△4.9	4,562	△1.2	3,039	△1.4
28年3月期第2四半期	55,996	4.4	4,792	26.9	4,617	23.7	3,082	32.6

(注) 包括利益 29年3月期第2四半期 2,120百万円 (△7.3%) 28年3月期第2四半期 2,286百万円 (△38.1%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第2四半期	49.28	—
28年3月期第2四半期	49.98	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年3月期第2四半期	145,184	49,721	31.6
28年3月期	144,798	47,822	30.4

(参考) 自己資本 29年3月期第2四半期 45,836百万円 28年3月期 44,034百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	2.50	—	3.50	6.00
29年3月期	—	3.50	—	—	—
29年3月期(予想)	—	—	—	3.50	7.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成29年3月期の連結業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	112,700	1.0	6,210	△8.9	5,920	△7.9	3,300	5.4	53.51

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注)詳細は、添付資料3ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(1)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

29年3月期2Q	63,000,000 株	28年3月期	63,000,000 株
29年3月期2Q	1,332,280 株	28年3月期	1,330,200 株
29年3月期2Q	61,669,419 株	28年3月期2Q	61,676,677 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法)

決算補足説明資料はTDnetで同日開示しています。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(セグメント情報)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益の改善に足踏みがみられるものの、個人消費は雇用情勢の着実な改善を背景に総じて底堅く推移するなど緩やかな回復基調が続きました。一方で、輸出・生産面において、中国をはじめとする新興国経済の減速の影響に加え、英国のEU離脱などに伴う海外経済の不確実性の高まりにより、先行き不透明な状況で推移しました。

このような状況のもと、当社グループ各社は、各部門において積極的な増収策を図るとともに、経費の節減ならびに経営全般の効率化に取り組んでまいりました。その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は572億7千8百万円（前年同期比2.3%増）となりましたが、不動産事業における「相模原中央ビル」のリニューアルに伴う修繕費の増加などにより営業利益は45億6千万円（前年同期比4.9%減）、経常利益は45億6千2百万円（前年同期比1.2%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は30億3千9百万円（前年同期比1.4%減）となりました。

セグメントの業績の概況は、次のとおりであります。

#### (一般旅客自動車運送事業)

乗合業においては、9月に愛甲石田駅南口～歌川循環線の運行を開始し、利便性の向上を図りました。また、藤沢駅・辻堂駅・本厚木駅～富士急ハイランド・河口湖駅線および町田駅・橋本駅～富士急ハイランド・河口湖駅線の運行が通期寄与したことに加え、法人契約に基づく学生輸送を新規に開始したことなどにより増収となりました。

貸切業においては、神奈中観光㈱が旅行会社などへ積極的な営業活動に努めたことにより新規取引先を開拓したことに加え、増車が寄与し増収となりました。

乗用業においては、高齢者や子育て世代の多様化するニーズに対応するため、前期より開始した外出時の付添いや観光案内などを行う「さぼーとタクシー」のサービスの利用が順調に推移しましたが、全体としては稼働が減少し減収となりました。なお、6月に神奈中サガミタクシー㈱が、茅ヶ崎地区にて女性乗務員によるカラフルなタクシー「Candy Cab」の運行を開始し新たなお客様の獲得に努めました。また、女性乗務員が働きやすい環境づくりが認められ、国土交通省より「女性ドライバー応援企業」に認定されました。

以上の結果、一般旅客自動車運送事業全体の売上高は303億8千4百万円（前年同期比0.1%増）、営業利益は原油価格の大幅な下落に伴う燃料費の減少などにより27億4千1百万円（前年同期比10.6%増）となりました。

#### (不動産事業)

分譲業においては、平塚市めぐみが丘ならびに5月より新規に宅地分譲を開始した藤沢市大庭の販売が順調に推移したことなどにより増収となりました。また、新築分譲マンションについては、伊藤忠都市開発㈱と共同事業で行っている「クレヴィア戸塚」の販売が順調に推移するとともに、小田急不動産㈱およびセコムホームライフ㈱と共同事業で行う「リーフィアレジデンス伊勢原」の販売開始に向けて、9月にモデルルームをオープンしました。

賃貸業においては、7月に賃貸施設「スーパーホテル戸塚駅東口」が開業し、新たに賃貸を開始したほか、昨年8月および9月より開始した岩手県金ケ崎町の太陽光発電所の売電収入が通期寄与しましたが、一括賃貸していた「厚木第一ビル」の解約により減収となりました。

以上の結果、不動産事業全体の売上高は25億9千6百万円（前年同期比0.6%増）となりましたが、「相模原中央ビル」のリニューアルに伴う修繕費の増加などにより営業利益は8億5千7百万円（前年同期比30.2%減）となりました。

#### (自動車販売事業)

自動車販売事業においては神奈川三菱ふそう自動車販売㈱にて、既存のお客様に対する営業活動を強化したことなどによりトラックの販売台数が大幅に増加しました。なお、9月には戸塚支店において、従来7ストールであった整備ラインを14ストールに増設するとともに、最新式の整備機器を導入した整備工場が完成し、全面リニューアルが完了しました。

また、神奈中相模ヤナセ㈱にて、7月にモデルチェンジを行った「メルセデス・ベンツ Eクラス」や前期より販売を開始した「メルセデス・ベンツ GLCクラス」などの新型モデルの投入により新車の販売が順調に推移するとともに、メーカー認定中古車の在庫を豊富に取り揃えお客様の多様なニーズにお応えしたことにより、中古車の販売も好調に推移しました。

以上の結果、自動車販売事業全体の売上高は147億4千9百万円（前年同期比1.7%増）となりましたが、トラックの販売台数の増加に伴う仕入原価増により営業利益は1億4千4百万円（前年同期比60.4%減）となりました。

#### (その他の事業)

情報サービス業においては㈱神奈中情報システムにて、グループ内企業向けの経理システムの代替に加え、グループ外のバス事業者向けダイヤシステムや運行システムなどの販売が好調に推移し増収となりました。

商用車架装業においては横浜車輛工業㈱にて、トラック全体の底堅い代替需要により、カプラ架装や自動車関連部品の販売が増加し増収となりました。

流通業においては㈱神奈中商事にて、原油安の影響による燃料販売単価の下落や、タクシー車両のハイブリッド車化などによるオートガス販売の減少などにより減収となりました。

飲食・娯楽業においては、4月に「らーめん花樂下瀬谷店」、8月に「箱根そば茅ヶ崎店」、9月には「ドトールコーヒESHOP立場イトーヨーカドー店」および「TSUTAYA平塚真土店」をリニューアルするなどお客様満足度の向上に努めましたが、前期に「ミスタードーナツMrMax町田多摩境SHOP」を閉店したことなどにより減収となりました。

ホテル業においては、宿泊部門で訪日外国人旅行者が減少するなか、客室をリニューアルするなど稼働率の向上を図りましたが、料飲部門でお客様が減少したことなどにより減収となりました。

以上の結果、その他の事業全体の売上高は145億3千4百万円（前年同期比2.3%増）、営業利益は8億8千2百万円（前年同期比19.6%増）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### ① 財政状態の変動状況

総資産は、投資有価証券の時価評価額の減少がありましたが、㈱湘南神奈交バス平塚営業所の建替工事に伴い建物及び構築物が増加したことなどにより、前期末に比べて3億8千6百万円増加し、1,451億8千4百万円となりました。

負債は、借入金の返済が進んだことなどにより、前期末に比べて15億1千2百万円減少し、954億6千3百万円となりました。

また、純資産は、利益剰余金が増加したことなどにより、前期末に比べて18億9千8百万円増加し、497億2千1百万円となりました。

### ② キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益45億1千3百万円に減価償却費などを加減した結果、61億7千5百万円の資金収入となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、固定資産の取得による支出44億4千2百万円などにより、40億8千7百万円の資金支出となりました。

また、財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の返済などにより、19億2千7百万円の資金支出となりました。

これらの結果、現金及び現金同等物の当第2四半期末残高は、前連結会計年度末に比べて1億6千万円増加し、22億7千5百万円となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年3月期通期連結業績予想につきましては、今後の事業環境が依然として不透明であることから、現時点において平成28年4月27日発表の数値から修正しておりません。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

### (1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

#### 会計方針の変更

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第32号 平成28年6月17日）を第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、これによる当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,344	2,475
受取手形及び売掛金	9,092	8,728
商品及び製品	3,659	4,413
仕掛品	9	6
原材料及び貯蔵品	452	408
その他	3,857	4,057
貸倒引当金	△67	△59
流動資産合計	19,347	20,030
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	79,582	81,754
車両運搬具	41,310	41,111
土地	60,572	60,571
その他	16,722	16,591
減価償却累計額	△94,573	△95,422
有形固定資産合計	103,613	104,606
無形固定資産		
	884	1,080
投資その他の資産		
投資有価証券	17,765	16,169
その他	3,198	3,309
貸倒引当金	△11	△12
投資その他の資産合計	20,952	19,467
固定資産合計	125,450	125,154
資産合計	144,798	145,184
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,378	6,559
短期借入金	17,406	21,031
未払法人税等	1,098	1,538
賞与引当金	2,053	1,896
その他	12,971	13,870
流動負債合計	40,909	44,896
固定負債		
社債	10,000	10,000
長期借入金	24,260	19,315
役員退職慰労引当金	30	30
退職給付に係る負債	5,178	5,098
その他	16,597	16,122
固定負債合計	56,066	50,566
負債合計	96,975	95,463

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,160	3,160
資本剰余金	693	693
利益剰余金	35,672	38,495
自己株式	△704	△705
株主資本合計	38,821	41,643
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,542	4,431
繰延ヘッジ損益	△292	△203
退職給付に係る調整累計額	△36	△35
その他の包括利益累計額合計	5,213	4,192
非支配株主持分	3,788	3,885
純資産合計	47,822	49,721
負債純資産合計	144,798	145,184

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
売上高		
一般旅客自動車運送事業営業収益	30,244	30,266
不動産事業売上高	2,570	2,586
その他の事業売上高	23,181	24,425
売上高合計	55,996	57,278
売上原価		
一般旅客自動車運送事業運送費	25,050	24,707
不動産事業売上原価	925	1,233
その他の事業売上原価	18,301	19,700
売上原価合計	44,277	45,641
売上総利益	11,718	11,636
販売費及び一般管理費		
販売費	4,459	4,414
一般管理費	2,466	2,661
販売費及び一般管理費合計	6,925	7,075
営業利益	4,792	4,560
営業外収益		
受取配当金	128	141
その他	125	126
営業外収益合計	254	267
営業外費用		
支払利息	345	222
その他	84	43
営業外費用合計	430	266
経常利益	4,617	4,562
特別利益		
固定資産売却益	186	123
補助金収入	100	147
受取補償金	210	—
その他	—	8
特別利益合計	497	279
特別損失		
固定資産除却損	19	184
固定資産圧縮損	94	134
その他	0	9
特別損失合計	114	328
税金等調整前四半期純利益	5,000	4,513
法人税、住民税及び事業税	1,551	1,426
法人税等調整額	189	△57
法人税等合計	1,740	1,368
四半期純利益	3,259	3,145
非支配株主に帰属する四半期純利益	177	105
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,082	3,039

四半期連結包括利益計算書  
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
四半期純利益	3,259	3,145
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△893	△1,118
繰延ヘッジ損益	△80	88
退職給付に係る調整額	0	4
その他の包括利益合計	△973	△1,025
四半期包括利益	2,286	2,120
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,112	2,018
非支配株主に係る四半期包括利益	173	101

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	5,000	4,513
減価償却費	2,693	2,833
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△307	△157
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△11	△7
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△99	△72
受取利息及び受取配当金	△129	△142
支払利息	345	222
固定資産圧縮損	94	134
固定資産除売却損益 (△は益)	△174	△32
売上債権の増減額 (△は増加)	353	363
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△673	△755
仕入債務の増減額 (△は減少)	△619	△809
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△1,328	187
預り保証金の増減額 (△は減少)	△233	△72
その他	1,547	1,025
小計	6,456	7,229
利息及び配当金の受取額	138	151
利息の支払額	△330	△206
法人税等の支払額	△1,541	△999
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,723	6,175
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△104	△100
定期預金の払戻による収入	114	129
固定資産の取得による支出	△3,028	△4,442
固定資産の売却による収入	138	215
投資有価証券の取得による支出	△1	△1
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△56	—
短期貸付けによる支出	—	△3
短期貸付金の回収による収入	—	116
長期貸付けによる支出	△2	△1
長期貸付金の回収による収入	0	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,939	△4,087
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	1,105	941
リース債務の返済による支出	△356	△386
長期借入れによる収入	5,000	—
長期借入金の返済による支出	△8,037	△2,261
自己株式の取得による支出	△1	△1
配当金の支払額	△154	△215
非支配株主への配当金の支払額	△3	△4
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,448	△1,927
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△664	160
現金及び現金同等物の期首残高	2,380	2,114
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,716	2,275

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他の 事業	計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	一般旅客 自動車 運送事業	不動産事業	自動車 販売事業				
売上高							
外部顧客への売上高	30,244	2,570	12,686	10,494	55,996	—	55,996
セグメント間の内部 売上高又は振替高	116	11	1,813	3,710	5,652	△5,652	—
計	30,361	2,581	14,499	14,205	61,648	△5,652	55,996
セグメント利益	2,478	1,228	366	738	4,811	△18	4,792

(注) 「その他の事業」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、流通業、飲食・娯楽業、ホテル業等を含んでおります。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他の 事業	計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	一般旅客 自動車 運送事業	不動産事業	自動車 販売事業				
売上高							
外部顧客への売上高	30,266	2,586	13,586	10,839	57,278	—	57,278
セグメント間の内部 売上高又は振替高	118	9	1,163	3,694	4,986	△4,986	—
計	30,384	2,596	14,749	14,534	62,264	△4,986	57,278
セグメント利益	2,741	857	144	882	4,626	△66	4,560

(注) 「その他の事業」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、流通業、飲食・娯楽業、ホテル業等を含んでおります。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。